

教育改革

疲弊する現場置き去り

「美しい国」

③

07 参院選

午後3時半。公立小学校の特別支援教室の床に、ヨシコ先生(2)の「仮名」はへたりこんだ。

教材のフラフープで、散らばったブロックやカードをかき寄せて片づけ

る。もう2人の担任と口頭できょうの児童の様子を交換する。「休憩」時間のはずだが、30分間、口と手は休まない。

今年度から、発達障害の子も対象とする特別支援教育が始まり、担当する児童数は倍増した。教室から出ていくこともあ

る子どもに、午前8時からマンツーマンでつく。

夕方は学校菜園の整備や教材準備。午後6時に退出し、自宅で夕食を食べ、「仮眠」。午前0時に目覚まし音で起き、朝まで提出書類の作成をする。「この上、土曜日

も出勤となったら……教師をやめます」

ヨシコ先生ら大阪府高槻市の学校の教員5人は

04年4月、1日45分の休憩時間を満足に取れないとして、府や市に不払い賃金など700万円を求めめる訴訟を起こした。原告のうち2人は精神疾患とがんで休職している。京都市でも04年1月、



放課後も教材の片づけや時間割りの打ち合わせが続く＝大阪府高槻市内で

「授業数増」裏付けみえず

超過勤務の是正を求め、教職員9人が市に損害賠償請求訴訟を起こした。

超過勤務の是正を求め、教職員9人が市に損害賠償請求訴訟を起こした。同市教職員組合の調査では、完全週5日制が導入された02年は、00年よりも週あたりの平均実労働時間が1時間増えた。超

朝日 7/10
子どものために尽くすべきだという職業意識や、長い休みがあるという世間の誤解もあり、声を上げられずにきたという。訴訟が相次ぐのは「過重労働が限界を超えたからではないか」とみる。

教育再生会議の第2次報告と安倍内閣の「骨太の方針2007」は、ともに「学力向上を目指す授業時数の10%増」を掲げる。週5日制を基本としつつ「学校の裁量で土曜日の授業も行えるようにする」という。だが、

肝心の授業をだれが担うのかは明確ではない。教職員の過重労働の是正と、授業時数増。矛盾する方針を両立させる方

策はあるのか。文科省初等中等教育企画に、教員が怠けて学力が低下したと短絡された。改革に予算増、教員増は不可欠なのにと話す。東京大学の荻谷剛彦教授(教育社会学)は「学力向上には、教員が十分に授業準備に取り組める体制づくりが必要だ」と指摘。再生会議の提言は、現

立命館小副校長は最後まで、「土曜授業」に反対した。「民間では週休2日をよしとし、教員はだめとする理由と処遇を考えていただきたい」。門川大作・京都市教育「理念」の前にかすみがちだ。

ゆとり教育の弊害で落ちてしまった学力は、授業時間の増加で取り戻さなければならぬ。「美しい国へ」